



POWERED MIXER

PM602FX

PM802FX

取扱説明書



株式会社 サウンドハウス

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡1958

TEL:0476(22)9333 FAX:0476(22)9334

<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

はじめに

この度は Classic Pro パワードミキサーをお買い上げいただき、誠に有難うございます。製品の性能をフルに活用し、末永くお使いいただくためにこの取扱説明書を必ずお読みください。なお、本書が保証書となりますのでお読みになった後は大切に保存して下さい。

使用上のご注意

- この取扱説明書にしたがって操作してください。
- 水には大変弱いので、雨などがかからないよう十分ご注意ください。
- 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動および輸送時には大きな衝撃が加わらないようにして下さい。
- 本機の設置場所は直射日光の当る場所やストーブの直前など、高温になりやすい場所を避け、なるべく通気性の良い場所でご使用ください。
- 定格電圧 AC100V、50/60Hz でご使用ください。
- 電源コードは機材への挟みこみなど、無理な力が加わらないよう、ご注意ください。
- 故障や感電事故を防止するとともに、性能を維持する為にもケースを開けて内部に触れたりしないでください。修理が必要なときには販売店、もしくは正規代理店までお問合せください。

基本機能

- モノラル入力チャンネルには、ゴールドメッキ仕様 XLR 端子と、バランス仕様 TRS フォン端子搭載
- 超低ノイズ、ディスクリート・マイクプリアンプ。+48V ファンタム電源
- 高ヘッドルーム。幅広いダイナミックレンジを実現
- 2 ステレオ入力チャンネル、TRS バランス仕様フォン端子
- 多目的に使用できる AUX ステレオライン入力 1 系統
- バランス入力により、原音に忠実な音声を再生
- 全チャンネルに 3 バンド EQ を搭載
- 全モノラルチャンネルにピーク LED、スイッチ切替可能なロー・カット・フィルターを搭載
- 各チャンネルに 2AUX センドを搭載、外部エフェクターに信号を送信したり、モニタリングが可能
- メイン MIX コントロールルームとヘッドフォン出力を個別に装備
- メイン MIX、コントロールルーム/ヘッドフォン出力に割当て可能な 2 トラック入力
- 9 セグメント LED メーター
- 50W+50W (4Ω) のパワーアンプ部
- 高品質 45mm フェーダー、シールド・ポテンショメーター

フロントパネル

1. マイク入力(XLR)

マイクを接続します。リアパネルの PHANTOM (4) を ON にしてファンタム電源を供給することもできます。

2. LINE 入力(TRS フォン)

バランスフォン、アンバランスフォンの両方に対応します。マイク入力を除くラインレベルでの入力に適します。

3. ロー・カット(モノラル ch のみ)

100Hz 以下の周波数帯をカットします。マイクのポップノイズや低域ハムノイズの除去にも適しています。

4. ゲイン

このつまみで入力信号の感度を調整します。

5. EQ HIGH(10kHz)

高域周波数をコントロールします。中心でフラット、左に回すと最大 15dB のカット、右に回すと最大 15dB のブーストができます。

6. EQ MID(2.7kHz)

中域周波数をコントロールします。中心でフラット、左に回すと最大 15dB のカット、右に回すと最大 15dB のブーストができます。

7. EQ LOW(100Hz)

低域周波数をコントロールします。中心でフラット、左に回すと最大 15dB のカット、右に回すと最大 15dB のブーストができます。

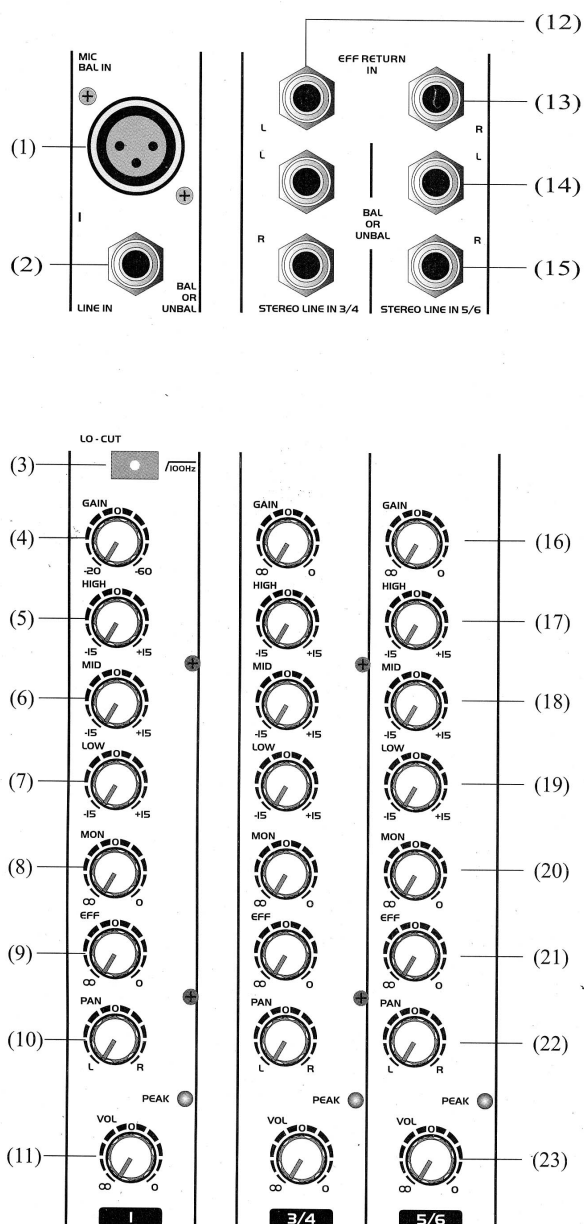
8 MON

MON OUT から出力される音量レベルをコントロールします。

9. EFF

内蔵エフェクト、または EFF SEND より出力される音量レベルをコントロールします。

EFF SEND に外部エフェクター等を接続しますと内蔵エフェクトが自動的に解除されます。



10. PAN

音声信号の定位を定めます。つまみを左側一杯に回すと信号は左に定位します。反対に右側一杯につまみを回すと信号は右に定位します。つまみを中心に設定すると、同レベルの信号が左右両方のチャンネルに送信され中心に定位します。

11. チャンネルボリューム

チャンネルの最終的な音量を決定します。

12. EFF RETURN IN L

EFF SEND から外部エフェクターで処理した信号のリターン端子として使用します。外部エフェクターの L 出力を接続してください。また EFF RETURN IN R と合わせてステレオ入力としても使用可能です。

13. EFF RETURN IN R

EFF SEND から外部エフェクターで処理した信号のリターン端子として使用します。外部エフェクターの R 出力を接続してください。また EFF RETURN IN L と合わせてステレオ入力としても使用可能です。

14. ステレオライン入力(L)

15. ステレオライン入力(R)

ステレオ入力チャンネルとして使用することができます。各チャンネルごとに 3 バンド EQ を活用可能です。MD、CD などの出力信号を入力するのに最適です。

16. ゲイン

このつまみで入力信号の感度を調整します。

17. EQ HIGH(10kHz)

高域周波数をコントロールします。中心でフラット、左に回すと最大 15dB のカット、右に回すと最大 15dB のブーストができます。

18. EQ MID(2.7kHz)

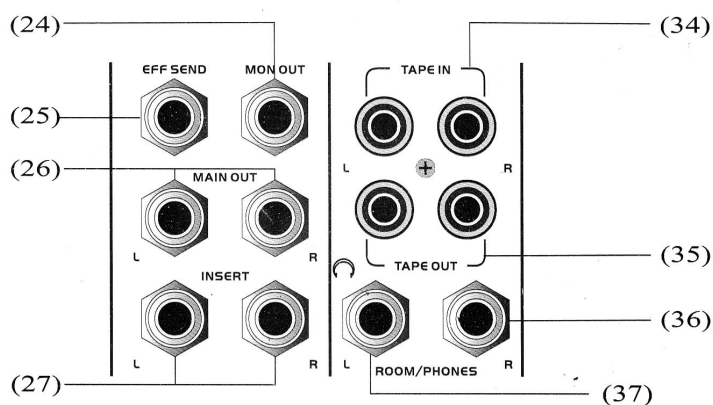
中域周波数をコントロールします。中心でフラット、左に回すと最大 15dB のカット、右に回すと最大 15dB のブーストができます。

19. EQ LOW(100Hz)

低域周波数をコントロールします。中心でフラット、左に回すと最大 15dB のカット、右に回すと最大 15dB のブーストができます。

20. MON

MON OUT から出力される音量レベルをコントロールします。



21. EFF

内蔵エフェクト、または EFF SEND (25) より出力される音量レベルをコントロールします。EFF SEND に外部エフェクター等を接続しますと内蔵エフェクトが自動的に解除されます。

22. PAN

音声信号の定位を定めます。つまみを左側一杯に回すと信号は左に定位します。反対に右側一杯につまみを回すと信号は右に定位します。つまみを中心に設定すると、同レベルの信号が左右両方のチャンネルに送信され中心に定位します。

23. チャンネルボリューム

チャンネルの最終的な音量を決定します。このつまみで他チャンネルとの MIX 具合を調整してください。

24. MON 出力

外部モニターアンプに信号を送信します。

25. EFF センド

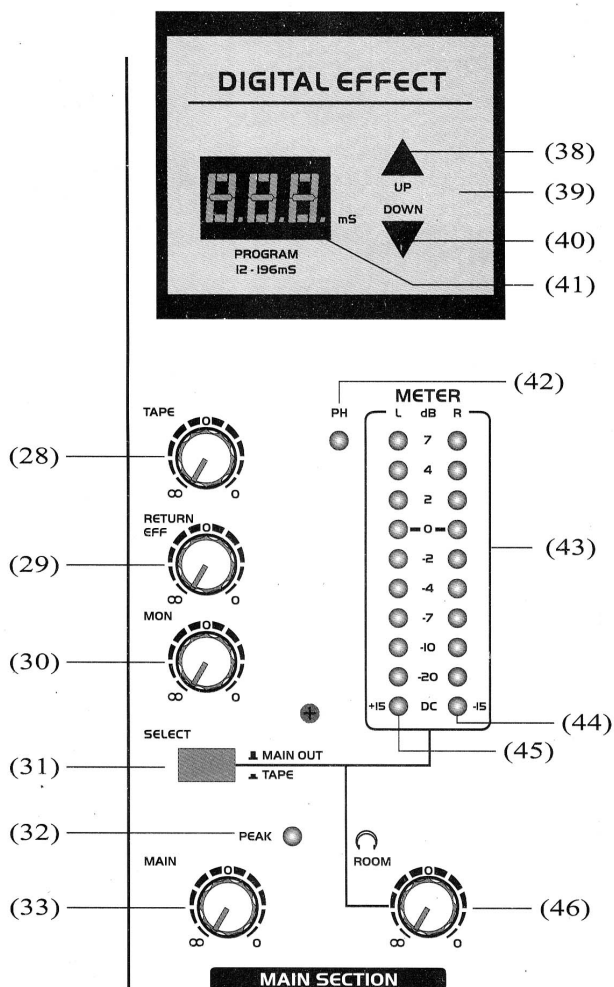
外部エフェクターに音声信号を送信します。その場合 PM602FX/PM802FX の内蔵エフェクターは自動的に解除されます。

26. メイン出力

ステレオメイン出力です。外部パワーアンプに接続することができます。

27. INSERT

最終段の信号に EQ やコンプレッサーを接続するときには使用します。接続にはインサートケーブルを使用してください。



28. TAPE ボリューム

TAPE OUT (35) より出力される信号のレベルを調整します。

29. EFF RETURN ボリューム

内蔵エフェクト、および EFF RETURN (12) からの入力信号のレベルを調整します。

30. MON ボリューム

MON OUT (24) から出力される信号のレベルを調整します。

31. MAIN/TAPE ボタン

MAIN の信号と TAPE IN からの信号を切り替えます。押し込んで TAPE モードにした場合、MAIN 信号は遮断され TAPE IN からの信号のみをモニターできます。

32. PEAK

MAIN 信号のピークを表示する LED です。頻繁に点灯する場合はレベルが大きく音も歪みが発生しますので MAIN ボリューム (33) を絞ってください。

33. MAIN ボリューム

MIX 信号の最終レベルを調整します。

34. TAPE 入力(RCA ピン)

ステレオテープ入力です。メイン出力やコントロールルーム、ヘッドフォン出力にも信号を送信できます。

35. TAPE 出力(RCA ピン)

CD、DAT、MD、テープレコーダーに接続し録音のための MIX 信号を出力できます。

36. ROOM L /PHONES

ヘッドホンに接続します。また CONTROL ROOM OUT の L チャンネル出力としても使用できます。ヘッドホンに接続する場合、ROOM R (37) には何も接続しないでください。ROOM R にプラグを差し込むと、ヘッドホン出力が解除され、ROOM L のみの信号となります。

37. ROOM R

CONTROL ROOM OUT の R チャンネル信号の出力になります。また ROOM L /PHONES (36) にヘッドホンに接続する場合には何も接続しないでください。ROOM R にプラグを差し込むと、ヘッドホン出力が解除され、ROOM L /PHONES からは ROOM L のみの信号となります。

38. UP

39. DIGITAL EFFECT PROCESSOR SYSTEM

40. DOWN

41. PROGRAM DISPLAY

16 プリセットの内蔵デジタルエフェクトです。切替は UP、DOWN ボタンにて行います。選択されているプログラムが番号にて表示されます。

42. PH

リアパネルの PHANTOM スイッチ (4) を ON にしてファンタム電源が供給されるとこの LED が点灯します。

43. METER

9 セグメント LED のレベルメーターです。

44. DC-15V LED

本体電源が ON の時点灯します。

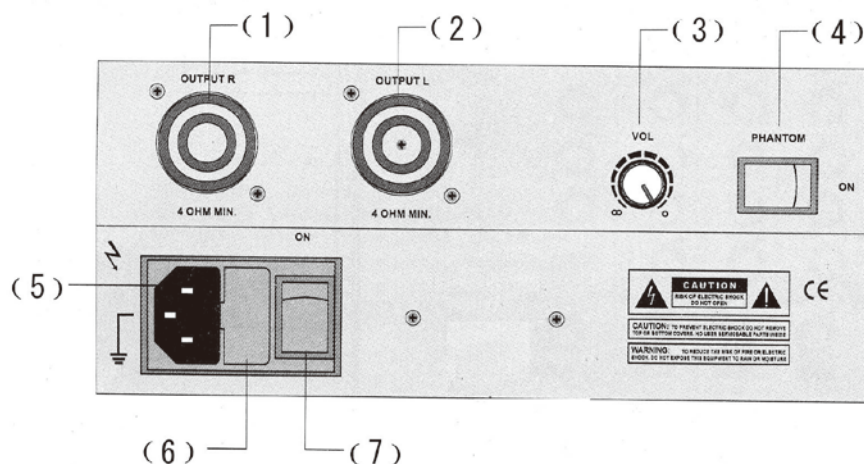
45. DC+15V LED

本体電源が ON の時点灯します。

46. ROOM ボリューム

ROOM /PHONES より出力される信号レベルを調整します。このつまみは MAIN ボリューム (33) と連動しています。したがってこのボリュームを上げるとスピーカー出力も大きくなりますので、ヘッドホンで十分な出力を得たい場合はリアパネルの VOL (3) を絞りと、ROOM ボリュームと MAIN ボリュームを上げてください

リアパネル



1. OUTPUT R

R チャンネルのスピーカー出力です。スピコン端子でピンアサインは 1 番+/-です。接続するスピーカーの最小負荷は 4Ω です。

2. OUTPUT L

L チャンネルのスピーカー出力です。スピコン端子でピンアサインは 1 番+/-です。接続するスピーカーの最小負荷は 4Ω です。

3. VOL

OUTPUT L/R から出力される信号レベルを調整します。このつまみを ∞ にしますとミキサーの音量が上がっていても OUTPUT L/R からは信号が出力されません。

4. PHANTOM(ファンタム電源スイッチ)

コンデンサーマイクを使用する際、モノラルチャンネルの XLR 端子に +48V ファンタム電源を供給します。使用の際はコンデンサーマイクの接続を終えてからスイッチを ON にしてください。スイッチ ON の状態で PH LED が点灯します。

5. AC 電源プラグ

付属の電源ケーブルを接続します。

6. AC ヒューズ

ヒューズは必ず電源コードをコンセントから抜いてから取替るようにして下さい。20mm 3.15A 250V スローブロータイプのヒューズがヒューズ・ホルダーの蓋の中に入っています。交換の際は必ず同型で同値のものと取替えるようにして下さい。

7. 電源スイッチ

本体の ON/OFF をこのスイッチで行います。

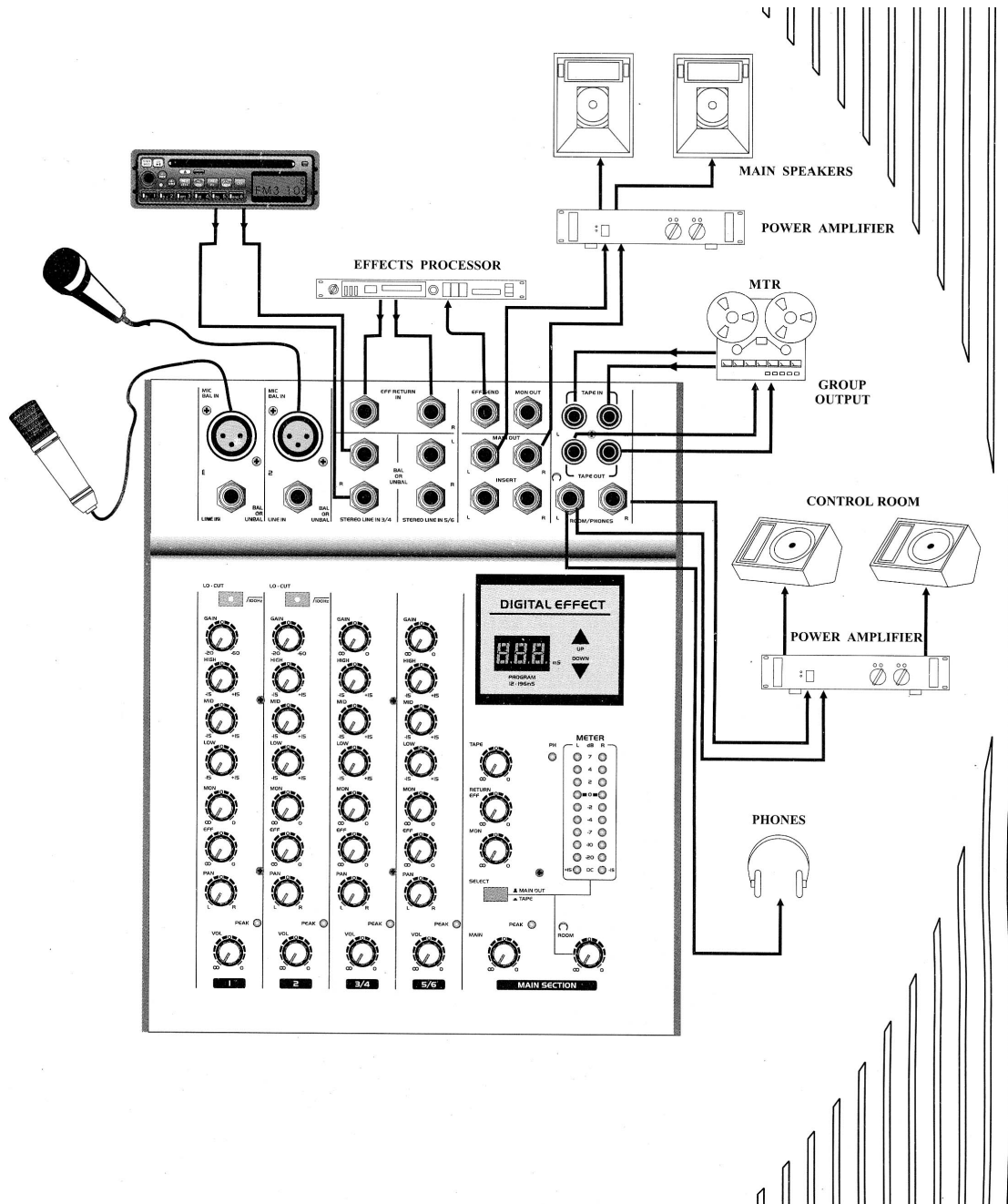
接続と操作

1. PM602FX/PM802FX を電源に接続する場合、必ず付属の電源ケーブルをご使用ください。また定格電源 100V、50/60Hz でご使用ください。
2. PM602FX/PM802FX の OUTPUT をスピーカーに接続します。その際、ボリュームコントロールはあらかじめ最低レベルに設定してください。
3. マイクを MIC BAL 入力に接続してください。
4. CD、MD、テープ等の信号を入力したい場合、機材を TAPE IN に接続してください。TAPE レベルコントロール、MAIN 出力を適切なレベルに設定してください。
5. PM602FX/PM802FX の出力信号を外部レコーダーに録音する場合、機材を TAPE OUT に接続してください。
6. 外部エフェクターでの信号処理をしたい場合、外部エフェクターを EFF SEND に接続してください。また外部エフェクターで処理された信号は EFF RETURN に接続してください。
7. ヘッドフォン及びコントロールルーム信号を ROOM/PHONES に接続してください。ヘッドフォンの場合は ROOM/PHONES の L に接続してください。
8. 外部イコライザーやコンプレッサーを接続する場合は INSERT に接続してください。
9. 電源スイッチを ON にし、ボリュームコントロールを調整してください。電源スイッチが ON の場合、15V LED が点灯します。
10. コンデンサーマイクを使用される場合、本体背面にある+48V ファンタム電源スイッチを ON にして下さい。
11. MIC GAIN チャンネルフェーダーとマスターフェーダーを適切なレベルに設定してください。
12. 内蔵エフェクトを使用する場合、お好みのプログラムを選択し、EFF レベルおよび RETURN EFF レベルを調整してください。
13. 必要に応じローカットボタンを押してください。
14. ROOM OUT ボリュームコントロールにより、ヘッドフォンに送信される音声信号レベルを調節できます。

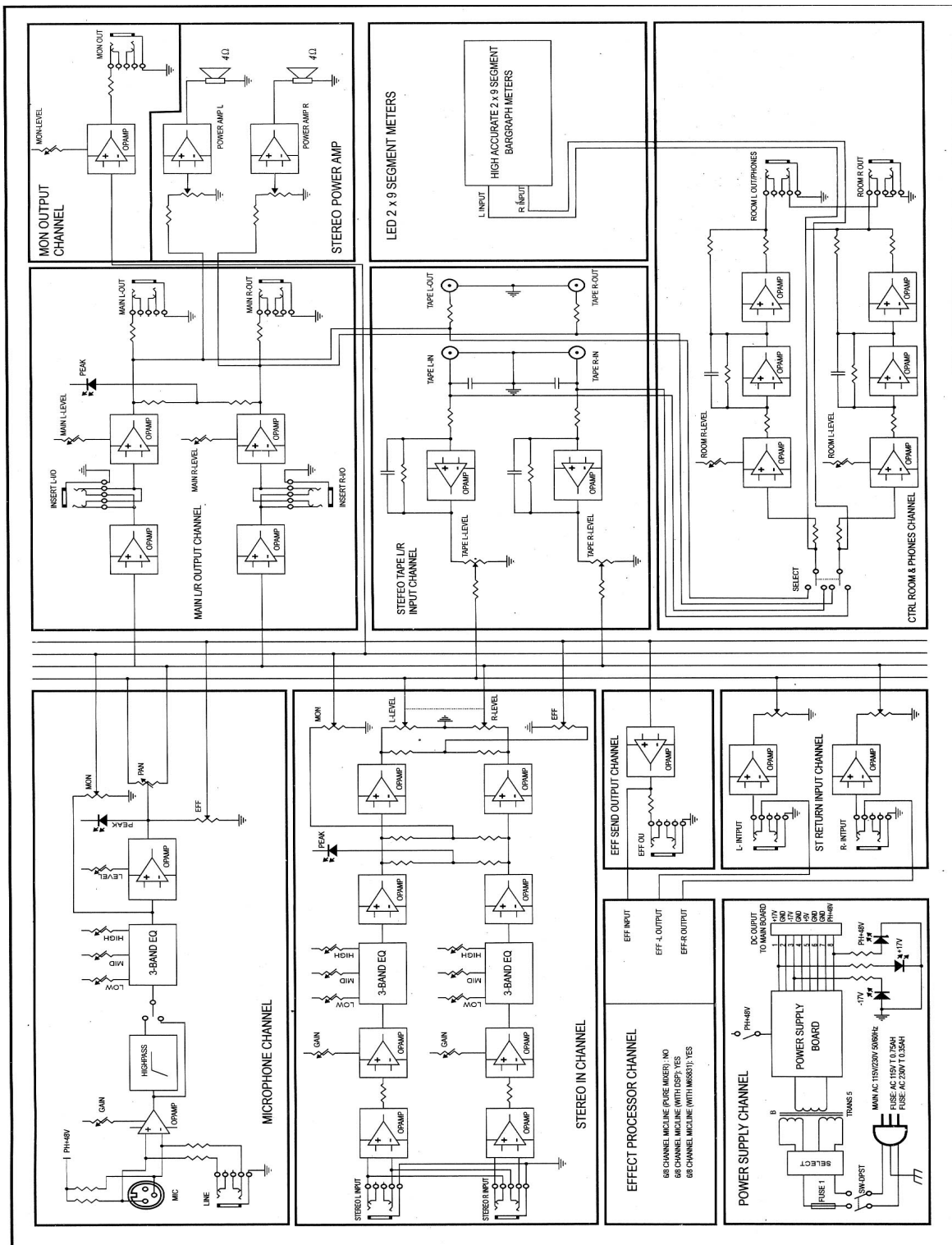
ご注意：

- PM602FX/PM802FX に他の機材を接続する場合、予め全ての機材の電源を切り、マスターコントロールを最低レベルに設定しておいてください。
- ヒューズを交換する場合、必ず同格品と交換してください (20m、3.15A、スローブロータイプ)

典型的なセットアップ



ブロックダイアグラム



TECHNICAL SPECIFICATIONS

入力	
モノラル CH	
マイク	バランス仕様 XLR
ライン	バランス仕様 TRS フォン
バンド幅	20Hz~20kHz<±0.5dB 10Hz~50kHz<±3dB
THD&N	0.05% (20Hz~20kHz)
ゲイン・トリム	40dB
等価入力ノイズ	-124dB
EQ	HIGH : 10kHz<±15dB MID : 2.7kHz<±15dB LOW : 100Hz<±15dB
ロー・カット	100Hz 12dB/oct
ステレオ入力	
ステレオチャンネル	バランス仕様 TRS フォン
バンド幅	20Hz~20kHz<±0.5dB 10Hz~50kHz<±3dB
THD&N	0.05% (20Hz~20kHz)
EQ	HIGH : 10kHz<±15dB MID : 2.7kHz<±15dB LOW : 100Hz<±15dB
EFF RET IN	アンバランス仕様 (フォン)
バンド幅	20Hz~20kHz<±0.5dB 10Hz~50kHz<±3dB
THD&N	0.05% (20Hz~20kHz)
TAPE IN	アンバランス仕様 (RCA ピン)
バンド幅	20Hz~20kHz<±0.5dB
THD&N	0.05% (20Hz~20kHz)
出力	
MAIN OUT (L/R)	アンバランス仕様 (フォン)
最大出力	+20dB
バンド幅	20Hz~20kHz<±0.5dB 10Hz~20kHz<±3dB
THD&N	0.05% (20Hz~20kHz)
コントロールルーム出力	アンバランス仕様 (フォン)
最大出力	+20dB
バンド幅	20Hz~20kHz<±0.5dB 10Hz~50kHz<±3dB
MON 出力	アンバランス仕様 (フォン)
最大出力	+20dB
バンド幅	20Hz~20kHz<±0.5dB 10Hz~50kHz<±3dB
THD&N	0.05% (20Hz~20kHz)
TAPE 出力	アンバランス仕様 (RCA ピン)
スピーカー出力	2×50W/4Ω
周波数特性	20Hz~20kHz、±1dB
S/N 比	>123dB
抵抗	FULL=4Ω
電源	AC100V、50/60Hz
消費電力	150VA
寸法	PM802FX : 24.5W×13H×26Dcm、 PM602FX : 21.5W×13H×26Dcm、
重量	PM802FX : 6.2kg PM602FX : 5.3kg

保証書

ご使用中に万一故障した場合、本保証書に記載された保証規定により無償修理申し上げます。

お買い上げ日より1年間有効

■保証規定

保証期間内（ご購入より1年間）において、取扱説明書・本体ラベルなどの注意書に基づき正常な使用方法で万一発生した故障については、無料で修理致します。保証期間内かどうかは、サウンドハウスからのご購入履歴により確認を行います。

但し、保証期間内でも、下記のいずれかに該当する場合は、本保証規定の対象外として、有償の修理と致します。

1. お取扱いが不適当（例：過大入力によるウーハー焼けなどの故障等）なために生じた故障の場合
2. サウンドハウス及びサウンドハウス指定のメーカーや代理店が提供するサービス店以外で修理された場合
3. 製品に対して何らかの改造が加えられた場合
4. 天災（火災、塩害、ガス害、地震、落雷、及び風水害等）による故障及び損傷の場合
5. 製品に何らかの理由で異物が付着、もしくは流入したことによる故障及び損傷とみなされた場合
6. 落下など、外部から衝撃を受けたことにより故障及び損傷がおきたとみなされた場合
7. 異常電圧や指定外仕様の電源を使用したことによる故障及び損傷とみなされた場合（例：発電機などの使用による異常電圧変動）
8. 消耗部品（電池、電球、ヒューズ、真空管、ベルト各種パーツ等）の交換が必要な場合
9. 通常のメンテナンスが必要とみなされた場合（例：スモークマシン等の目詰まり、内部清掃、ケーブル交換等）
10. お客様自身で行った調整や修理作業が原因で生じた破損事故や故障
11. その他、メーカーの判断により保証外とみなされた場合

●運送費用

通常、修理品の持込等に要する費用は全てお客様のご負担となります。但し、事前に確認のとれた初期不良ならびに保証範囲内での修理の場合は、佐川急便に限り着払いを受け付けます（下記RA番号が必要です）。沖縄などの離島の場合は、着払いでの受付は行っておりません。送料はお客様のご負担にて、どこの運送会社からでも結構ですので発送願います。

●RA番号（返品承認番号）

初期不良または保証内の修理における着払いでの運送については、サポート担当より通知されるRA番号が必要です。ご返送される場合は、必ずRA番号を送り状シールに明記してください。RA番号が無いものについては、佐川急便以外の運送会社での着払いは一切お受けできませんのでご了承ください（お客様のご負担の場合はどの便でも結構です）。

●注意事項

サウンドハウス保証は日本国内のみに有効です。また、いかなる場合においても商品の仕様、及び故障から生じる損害（周辺機器の損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、又はその他の金銭的損害）に関してサウンドハウスは一切の責任を負いません。

